

うろたえ、慌てふためく朝日新聞

先ごろ、STAP細胞で大騒ぎして誉めそやし、「捏造」と判断されるや、それまでの態度を一変させ攻撃にまわる、ということがあった。何も朝日にかぎらないが。マスメディアというのは、右に習えが好きな社会やなあ。しかし、その世界では大事でも、世間的にはさほどの影響はなかった。それよりも「朝日といえば捏造」「捏造といえば朝日」という流言蜚語あるいは世間の風潮というか流行というか、断定というか。

若い頃に読んだ「空前絶後」の話を思い出した。試験問題にでたものだが、悩みぬいた末に書いた答え。「午前中は空腹で、午後になって気絶した」・・・まあこれくらい想像力（創造力）がないと、一流の記者にはなれない、ということか。

ボクの仕事はそういうものではないから、それほど覚えているわけではない。（ずっと記録している人もいるが）いつときすぎれば忘却の彼方に、である。しかし、伊藤律の架空会見記、沖縄珊瑚事件、田中某と亀井某との会談、教科書誤報問題で中国へのご注進、「純真さを強調した」高校野球の欺瞞性、任天堂社長への（架空の）インタビュー、などなど、まだあるだろうがとりあえず、これだけでもひとつひとつがニュースです。しかしながら、これらは、誰かを攻撃するものでもない「漫然たる捏造」である。

今回、反原発の立場から、福島第一発電所所長吉田昌郎氏の調書を5月に入手し、フクシマ・フィフティと世界中から尊敬を集めた60数名の原発社員や協力会社（下請け）の社員はともかく、残りの650名すなわち90%が、「踏みとどまれ」という所長の命令に背いて10km少し離れた第二原発に逃げ出した、と一面トップで大々的に報道した。曰く、〈所長命令に違反 原発撤退〉〈福島第一 所員の9割〉2面にも〈葬られた命令違反〉。さらに、撤退するという東電を菅が引きとどめて日本を救った、という話になっている。・・・これだけでウソとわかる。菅は、日本を救うというような「愚かなこと」はしない。また、そんなことをしようと思ってくれるな！ そうでなくても事故後の第一原発の作業の邪魔ばかりしてきたのに。朝日も菅も、いわば「反原発」「東電を貶めること」で利害が一致しただけだが、・・・これなどは、誰と指名していなくても、命を賭けて働いた会社員や自衛隊・消防隊の努力を踏みにじる報道である。フクシマ・フィフティの誰かが倒れたら当然交代要員が要る。そのための待機である。命懸けで原発の事故処理をしていた勇敢なメンバーへの侮辱以外のないものでもない。

もっとひどいのは個人への冒瀆である。有機栽培の米作農家が農薬を使っているなどと大きく報道する（捏造かどうか知らないが、必要な農薬は使うべきである）、もし事実ではなかったら、同じ大きさの記事で謝罪するべきだが、そんなことをしたなどという話は聞

かない。「反安倍」の流れで、安倍さんと百田尚樹氏への個人攻撃。吉田昌郎所長を描いた「死の淵を見た男」の著者門田隆将氏への脅迫、などは、得意の「弱い者いじめ」そのものである。まだある。橋下徹の生い立ち、ディアゴスティーニ・ジャパンの極秘資料を盗む、北大教授奈良林直氏への中傷。当然ながら部数減になると、販売所への負担を強要する。百田氏も吉田氏もえらい怒っている。

(従軍慰安婦については、すでに一部を書いたが、資料が膨大すぎて積み上げれば1メートルではすまないくらいなので、今回は省きます。)今回は、吉田調書を中心に。

大きな問題は、

1. 池上彰氏のコラム掲載拒絶。あまりの反響にあわてて掲載をするようになったが、池上さんは、二度と朝日にはコラムを書かないだろう

池上さんあたりになると、朝日も低姿勢になる。なぜなら、TVで発信されるから。

2. 週刊誌、週刊文春、週刊新潮の広告掲載拒否。さらに、掲載したはいいが、捏造とか誤報とか、大事な部分は●●で逃げる

3. 門田隆将さんは、朝日の記事を最初に「捏造だ」と看破した人であるが、この門田さんに、「謝罪や訂正をしなければ法的措置を講じるぞ」と脅し、抗議書を送りつけた。盗人猛々しいとはこのことである。青山繁晴さんには何もいわなかったらしい。なぜなら、メディアを通じて、朝日と菅の共通項「反日」を指摘されるから。(もうすでに喋った後だが)

4. 百田氏は、安倍さんとの話だけではなく、その前からいろいろ確執があった。門田氏への抗議書について、「こうした権力を持たない一個人に対して、大企業や政府などが威圧的・恫喝的な目的で起こす訴訟をスラップ訴訟(恫喝訴訟)といい、欧米では禁止している自治体もある。

大企業相手に訴えられた個人にとっては、訴訟費用だけでなく、要求される賠償金額も高額すぎて、とても耐えられない。櫻井よし子さんも、訴訟ともなれば、資料を読み込んだり、弁護士を雇ったり、費用も時間もエネルギーも、裁判にかかる負担は大変なものがありますと言う。(元産経新聞のモスクワ支局長をしていた人の話だが、以前、TBSの社員がモスクワ支局の記事で揉めたとき、朝日の特派員は訴訟を起こした。当然、資金も時間も無駄になる。このとき、新聞なら、訴訟をして第三者に判断させるようなみっともないことをするな、自社新聞で反論すればいい、と正論を述べた人である。明らかなスラップ訴訟である。)

百田氏がいう。門田さんの場合はひどい。訴える可能性を示唆して脅したのは天下の朝日新聞です。

メディアとして、いくらでも情報発信できる。反論なら、自社新聞でやればいい。法的手段をとるなど、言語道断。……

普通、「おたくの報道はおかしいのではないか」と指摘された時点で、事実関係など再検証するものです。そういったことを一切せず「何やお前、何イチャモンつけとんねん。潰すぞ」と抗議書を送りつける。ところが、政府が（というより安倍さんが）吉田調書を公開します、と言った途端「すみませんでした。あの記事取り消します」って。最低ですよ。やっぱり朝日新聞はクズです！

つまり、公開されたら、「捏造」が明白になることを白状したようなもの。それを、まだ「誤報」と言い募る卑怯未練さ。男の風上にも置けない態度である。

吉田所長は、情報だけが独り歩きしてしまうことを懸念したために「非公開」を希望していただけである。遺族の了解のもと、公開してよかったのではないですか。部下たちの功績に対する褒美みたいなもので、失われた矜持も回復されたし。

同じく櫻井よし子さんと門田さんが対話している。……もう笑いますよ。天下の朝日新聞が、社員が何万人もいる大会社が、一個人を相手に桐喝するというみっともなさ。嘘を書いておいて「ウソつき」と言われたら訴えるなど、TV番組じゃあるまいし。言論界の雄を自負してんねんやろ。

新聞記者は頭が悪い、というのは小生の持論ですが、吉田調書を見て書いたのは、ひとりの記者だけではなく、編集長までからんでいる。すると、全社員の頭が悪い。もしくは、「本当は頭がよくて、これなら捏造がバレナイだろう」とタカをくくって報道したのだろうか。門田氏は「優秀な人が多い」と言っているから、今回の「誤報」は、単なるチェックミスではなく、何らかの意図がそこに働いていると考えざるを得ない、と言う。……小生思うに、そういう意図的な「誤報」を「歪曲報道」といい、「捏造」と言うのです。

特に、現場を取材していない、ことが問題で8月18日に産経新聞が調書を入手、ついで読売、共同通信。これらの“正しい”報道は、非難されても（たとえば産経の阿比留瑠比氏）無視していた。9月に安倍さんが公開すると言った途端に「誤報でした」はないやろ！謝らなあかんけど、ついでに従軍慰安婦のことも謝ってこか。

門田氏が、私が悪質だなと感じるのは、吉田所長が命令違反を否定して、結果的に「正しい判断だった」と評価したことや、伝言ゲームになってしまい、職員たちに指示が伝わっていなかったことを朝日デジタルでは載せているのに、紙面では欠落させたことです。……つまり、意図的に恣意的に「欠落させた」。

朝日が言うような「所長命令に違反して撤退した」ということが成立するためには、

4つの「構成要件」を満たさねばなりません。

1. 吉田所長が1F（福島第一原発）に留まれと命令を出した
2. その命令が部下に伝えられた
3. その命令を部下が無視した
4. その上で撤退した

この1~4のどれかが欠けても「命令違反による撤退」は成立しません。

朝日は、1と4とを曲解して強引にくっつけた上で、報道しました。・・・**歪曲報道!**

吉田調書は非公開だから、自分たちの（つまりは朝日と菅）都合の良いように一部だけを切り取って拡大し、全体像を歪めてもわからないという心理。これによって「反原発」の方向に世論を誘導しようとした。

5月20日の朝日の記事では、「吉田調書が残した教訓は、過酷事故のもとでは原子炉を制御する電力会社員が現場からいなくなる事態が十分に起こり得るということだ。

（中略）その間に答えを出さないまま、原発を再稼動して良いはずがない」ネッ!

**朝日新聞の特徴は、自分の主張、あるいはイデオロギーを押しつけるために、都合のいい情報を引っ張ってきて報道することです。**

吉田所長は発言がひとり歩きすることを懸念していました。だから、よく言っていたのが「部下に確認してほしい」不眠不休で対処していたら、頭が朦朧として時系列がよくわからなかったりする。

「死の淵を見た男」を読めば、そのあたり、つまりフクシマ・フィフティがどう考えどう行動したか、よくわかる。**あの地震では何の問題もなかった。津波によって電源喪失がなければ問題はなかった。**電源が落ちて早い段階で消防車の手配をした所長に多くの専門家が驚く。この男がいたから、フィフティが命懸けで行動したから、あの程度で済んだ。（菅が邪魔をしなかったら、2号機も爆発しなかったかもしれない）「退避!」と怒鳴っても、「撤退!」などを使うはずがない。

その後、朝日新聞の謝罪会見のあと、出るわでるわ。まだたりないかもしれない、これからの朝日の報道姿勢にも影響しかねない意見が続々と。

池上彰、北大の奈良林教授、古森義久、八木秀次、勝谷雅彦、佐瀬昌盛、西岡力、中西輝政、藤岡信勝、日下公人、百田尚樹、櫻井よし子、加藤清隆、山藤章二、佐々淳行、金美齢、宮崎哲弥、屋山太郎、産経の阿比留瑠比、などなど錚々たる人々が辛辣な意見を述べているし、福島県民の心ある人々からも非難轟々である。

これは、普段の朝日の取材姿勢や倣岸不遜な態度が嫌われている証拠みたいなもの。金美齢さんなど、「水に落ちた犬なら叩け!」とまで言う。・・・まともな人はみんな

なそう思っていますよ。だからの大騒ぎ。

半藤某など、ピントのずれた発言で、すべての人が非難するのをおかしいと言う。おかしいのは自分でしょ！極端の項で述べたが、やっぱりずれている。「言論の自由を守れ」という。いくら「自由」といっても自ずから限度があるだろう。現に深沢七郎や大江某などで、ここまで言うのはだめだろう、という経験をしているではないか。

古森義久氏が、「朝日はこれまで、慰安婦問題にしろ、吉田調書にしろ、虚の部分に立脚し、過激な言葉で人を叩いてきた。今これだけ謝らなくてはならないのは、逆にそれだけ紙面のいろいろなところで誤報（小生は「捏造」でもいいと思いますが）に基づいて“敵”をクソみそに叩いてしまっていた現れです。本当に恥ずかしいことだと思います。」……古森さんは、いつだったか、朝日の主張することの反対をしていれば、とりあえずは（政治的にも）安泰だった、と皮肉った人である。

朝日の天声人語が〈気にいらぬ意見や、不都合な批判を排した新聞は、もう新聞ではない〉……そのとおり。わかっているじゃないか。なら、廃刊しますか？

慰安婦問題の大御所吉田清治が、「新聞だって、自分の意見を通すために、事実を隠し、自分の主張を書いているじゃないか」……唯一の本当のことかもしれない。

朝日は、撤退するという東電を菅が怒鳴りつけ、日本を救ったことにしたかった。「反権力」を標榜しながら、民主党政権には、徹頭徹尾賛意を表してきた。共通項は、「反日」です、と青山繁晴さん。菅は中国に主張できない。朝日は安倍さんが嫌い、「反安倍」。なぜなら、安倍さんは、生意気にも中国さまと会談しようとしないう。条件をつけなければ会ってもいい」とか。韓国については、会談の予定もない。韓国は「まず謝罪をせよ」（すでに書いてきたが謝る理由がない。村山トシ吉や菅とは同じように考えていたなら、大いなる誤謬です！）「いやだ！」韓国はもういいや。……こういう態度が気に入らない。前の首相のときから嫌い。紙面でどれだけ叩いてきたか。

それはともかく、原発の吉田昌郎所長が言った「基本的にずっと考えてみれば、やはり発電所内の社員や協力会社社員の命を守る、これができなければ周辺の人々の命も守れない。当直長や当直副長らが命を投げ出す気概を示し、若い人に頭を下げてまで踏みとどまってくれたことに感謝している。本当に感動したのは、みんな現場に行こう行こうとするわけですよ。それにもかかわらず、運転がどうだったかとかみたいなことを言うやつがいると、もう、はらわたが煮えくり返ってくる。私、ほんとにわかっているのか、おまえら、運転が……」……これは朝日や菅に対するあてつけやな、オレにもわかります。

2014. 10. 05.